

# 古代史への誘い

たかがきひろのり  
高垣廣徳  
ひがしひろしま  
東広島市長(広島県)



## 賀茂郡と呼ばれていた東広島市

最近、古墳時代から律令制が敷かれた飛鳥時代に興味を持つようになりました。歴史学には文献史学や考古学などのアプローチがあるわけですが、それらが少ない時代には、いろいろな仮説を立てながら推理をしていく楽しみがあるように思います。

この時代の文献やChatGPTなどでキーワード検索をしながら妄想にふけったり、行事で移動中に車窓の景色を眺めたり



庁舎屋上から望む西条駅と赤瓦の酒蔵群

する中、地名の成り立ちや道の歴史を考えることが楽しくなっています。

私が市政をお預かりしている東広島市は、かつて賀茂郡と呼ばれた地域の9町から成る市で、広島大学の移転に伴い市制を施行し、以来52年とまだ若い市ですが、安芸国(広島県の西半分)の国分寺があった地で、国府も一時期この地にあったのではないかと言われています。

また、古墳時代の県内で最も大きい前方後円墳である三ツ城古墳もあり、かつてヤマト王権に近い豪族がこの地を支配していたのではないかと考えています。

賀茂郡という地名が文献に初めて出てくるのは、平安時代の805年です。ただ、律令制(大宝律令701年)により既に国衙領であったことや、国分寺(国分寺建立の詔741年)が建立されていたことから、少なくともその1000年ぐらい前から賀茂郡と呼ばれていたのではないかと推定できます。

では、なぜ本市はかつて賀茂郡と呼ばれていたのでしょうか。現在の市史では、複数の説が挙げられていますが、山城国



広島県内最大の前方後円墳 三ツ城古墳

(京都府)の賀茂に関係があり、比較的早い時期にこの地へ賀茂の人びとが移り住んだという見方も示されています。

## 早くから人が住んだ賀茂台地

考古学の面から見ますと、賀茂郡に人が住むようになったのは石器時代からで、約2万年前の住居跡群が見つかっており、弥生中期以降は丘陵部の縁辺部に集落が増え、後期には拠点集落が目立つようになります。古墳時代の中期(5世紀前半から6世紀前半)には県内最大級の前方後円墳が築かれるほど、ヤマト王権と強いつながりがあったと考えられ、誰を埋葬したのかは特定されていませんが、国司級の有力豪族であった可能性が指摘されています。



新宮神社の神武天皇腰掛石

ヤマト王権は弥生時代から古墳時代にかけて中央集権国家を形づくっていきませんが、そのプロセスが神話として『日本書紀』や『古事記』に描かれています。『古事記』中巻には、神武天皇一行が東征の途中で安芸国に立ち寄り7年間座した、という趣旨の記述があり、安芸国の穀倉地帯であった賀茂郡一帯を探索した可能性も考えられ、伝承として神武天皇が座したとされる石が郡内の神社（西条町の新宮神

社）に残されています。こうした伝承の真偽は別としても、ヤマト王権が賀茂台地の価値を評価し、この地を統治していた豪族と関わりを持った可能性はあるのではないのでしょうか。

ヤマト王権は、大きな戦いをすることなく、話し合いと結び付きで少しずつ国の形を整えていったとも言われます。そうした流れを支えた有力な人びとの中に、「賀茂（かも）」と呼ばれる一族がいたのではないかと、という点が私には気になります。

「賀茂（かも）」という名前は、同じ読み地名や氏（うじ）が各地に見られ、古代には「カモ」を名乗る人びとが広い範囲で活動していた、と考えられています。京都の賀茂社につながる系統、奈良の「鴨」と呼ばれた土地に関わる系統などが語られることもあります。

### 山城国賀茂社との関係

当時の国づくりでは、武力だけでなく「祈り」や「祭り」も大切な役割を持っていました。

朝廷は、各地の有力者と結び付きながら、祭りの場を整えたり、暮らしに欠かせない物資を集めたりして、国としてのまとまりを強めていきます。賀茂の人びとも、そうした「国を支える仕組み」の中で、何らかの役割を担っていたのかもかもしれません。

安芸国には賀茂神社・加茂神社・上賀茂神社・下賀茂神社など、「賀茂（かも）」の名を冠する神社が各地に見られ、この地域は賀茂信仰があつた土地だと紹介されることもあります。賀茂社（上賀茂・下賀茂）は、都の祭りや祈りとも関わり深い神社として知られていますが、地方の有力者がこうした信仰を取り入れることで、自らの立場を整えようとした可能性も考えられます。また、神武東征に同行した賀茂の人びとがこの地に移り住んだ、という見方もできなくはありませんが、現時点では確かな証拠がありません。信仰の広がり（伝播）を通じて「賀茂」の名が各地に根付いていった、と考えるのが自然ではないのでしょうか。

昨年、縁あって葵祭に参列し、下鴨神社で拝殿の機会を頂きました。

大変名誉あることだったので、本市と賀茂社との関係が歴史的に証明されているわけでもありません。私としては、ただ賀茂郡と呼ばれていたことをもって参列の榮譽を得たと思っています。市制50周年を迎えた本市では、それを記念した市史の編さんに取り組んでいます。その中で解明したい歴史の一つが、「賀茂郡」と呼ばれるようになった背景です。物的証拠に限られるからこそ想像が膨らむ地名でもあり、古代史の面白さがここにあるように感じています。